

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼で理念を唱和して、共有し1日の実践につなげている。	毎朝、代表者を含め出勤職員全員により朝礼が行われ、基本理念とホームの経営理念、今日の心がけ等を唱和し、「13の徳目」により個々の目標を掲げ実践に取り組んでいる。利用者や家族には契約時に基本理念を説明し理解をいただいている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	会社のまわりの清掃、草むしりなどの作業を通し交流をしている。夏まつりの行事などへの参加をお願いしている。	自治会費を納め地区の一員となっている。代表者が地区住民であるため、回覧板等で情報が得られており、地区の奉仕活動にも参加している。小学校の音楽会の招待を受けたり、中学生の職場体験、短大福祉科の実習生の受け入れなどを行っている。幼稚園児が歌や劇の披露に来訪するのを利用者も楽しみにしており、地域との交流が盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のグループホームあゆみとして地域の皆さんに理解していただく活動をしつつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	質問、希望などをお聞きし、サービス向上をはかるよう努力する。	利用者家族、2地区の区長、2地区の支所関係者、地域包括支援センター職員、老人クラブ代表、民生委員、ホーム職員などの参加により開催されている。ホームの現状報告などを行い、ホームへの質問などに答えており、有意義な意見交換の場となっている。	地区の各代表者との意見交換は行われているが、現在は年3回ぐらいの開催となっているため、年6回の開催を目標に今後さらに情報交換を密にされることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあつたりしたとき等は相談や指示を聞いたりします。また、市からの連絡もいただいている。	地区のケアマネージャーから利用者の紹介を受けている。市の介護相談員2名が月1回来訪している。法人内で「認知症について」と題しミニ講演を開催し、地域の住民にも参加案内を行った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束しないよう取り組んでいる。玄関の施錠は外部からの侵入の危険がある遅番が帰る時間から朝、早番が来るときまでは鍵をかけているがそれ以外は基本的に施錠はしていない	年1回は内部研修を行い、基本的に身体拘束をしないケアを周知している。状態によりやむを得ない時には、利用者や家族の意向を確認しつつ説明を行い、経過を記録し検討をしていく体制を整えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に詳しく利用者さんの状況など職員の対応など聞き変化などないか注意を払っている。虐待のないように日常的に気を配って防止につなげている。		

グループホームあゆみ・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これから勉強する機会を設けたい。月1回の勉強会を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護改正など変更があったりした場合、お便りを出したり説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これからではあるが家族会などを開きたいと考えている	利用者自身で要望等を伝えられる方もいる。「あゆみ新聞」を年4回発行したり、毎月1回担当職員からお便りを送り様子を家族に知らせ意思疎通を図っている。家族の面会時やホームの行事にお招きした時などに要望等をお聞きし運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	13の徳目という物を利用し意見等を聞いている。	毎日の目標や要望などを書き込むための「13の徳目」に記入された意見や要望は管理者が毎日目を通し、内容によっては管理者が直接面談を行うなど、意見を反映し、改善に向けて努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	査定をし、賞与などに反映させている。また、環境など要望があれば取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの能力を把握し、面談などを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者同士で勉強する会を開いているところへ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からお話を多く聞くよう努めている。1対1での話やご本人との気持ちに寄り添い関係を深めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	それまでにかかわっている福祉関係などから情報を踏まえご家族にも話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々の意見を聞き、支援計画を立ててそれに沿った支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の食材の皮むきや、配膳、下膳、食器拭きなどの手伝いをさせていただいたり、清掃、身の回りのことなどご本人ができる事はさせていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの様子や健康状態などを月1回の経過報告を行い、家族との連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のご近所の方、知り合いの方などの面会を通して、関係継続の支援に努めている。	友人に手紙を出したり、以前、法人内の隣接された宅老所を利用していた時の友人が宅老所の利用日にホームに来訪し面会されたりしている。希望により馴染みの場所にお連れするなど、馴染みの関係の継続を管理者はじめ職員が大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや雑談などの場を作り、一人が一人が協力できるような支援づくりを務めている。		

グループホームあゆみ・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんの今の状況をお聞きしたり、そう だんがあれば支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と定期的に会話をし本人の思いや要望を聞き、できる限り要望に応える努力をしている。	利用者自身で思いや意向を表出できる方もいる。日々声掛けし意見や要望をお聞きしている。家族からの情報や生活歴から個々の思いや意向を把握し、希望に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人はもちろんご家族や前回かかわっている福祉関係の方より話を聞いたりする。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をとり、本人の1日の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設ケアマネにより、作られた介護計画を基本とし、ミーティングで課題をあげ実際どう支援していくか話し合いしている	月1回のミーティング時に担当職員から課題を出してもらい、毎月モニタリングを行っている。3ヶ月ごとにプランの検討を行い、6か月ごとに見直しも 行っている。状態に応じて随時の見直しも 行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践、気づきなどを出来る限り、詳しく記録し、職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が本人の支援ができないときなどは変 わりのサービスを提供している		

グループホームあゆみ・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある文化センターなどまで散歩し、休憩を取らせてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診をうけていただき、健康管理や状況が把握できるよう支援している。	利用契約時にホームの協力医の説明をしている。利用前からのかかりつけ医を継続されている方もいる。協力医による往診が個々に月1回行われている。常勤の看護師により24時間体制で医師と連携が取れるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専属の看護で週2回来社してもらい、入居者の方の状態を伝え、相談し支援を行っている。24時間相談体制も整っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	電話で連絡を取りあったりして、今後の話などを行っている。情報の交換も必要に応じてしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームでみられる範囲であれば重度化、終末期を迎えても関係者協力をし支援に取り組んでいく考えである。ホームで看取りを行った。	契約時には本人や家族に希望をお聞きしているが、状態の変化により気持ちも変わることを想定し、医師が中心となり家族、管理者、看護師と話し合いを行い、同意を得ている。看取りの指針が作られており、希望に応じた支援を行っている。開設約3年半で、3名の看取りも経験された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に発生時の対応はマニュアルがある。それをいざとなったときスムーズに対応できるよう訓練を考えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害については119への直通電話があり、年2回避難訓練を行う。	防火管理者を中心に計画を立て消防署の協力を得て年2回定期的に避難訓練を行っている。スプリンクラー、自動火災報知器なども設置され、備蓄も準備している。夜間は各ユニットに1名の夜勤者がおり、隣接の施設の夜勤者とも連携を取れる体制ができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、ほかの人からの言葉に傷つかなないように、言葉がけに対応している。一人ひとりの呼び方にも本人の希望を取り入れている。	プライバシー保護についてのマニュアルが用意されており、ミーティング時に時折話題にし、職員間で情報の共有を行っている。男性利用者、男性職員もおり、入浴介助や排せつ介助などは特に個々の希望に合わせ配慮し支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いやりや希望など、積極的に出せるよう促して声掛けを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんが一日をどのように過ごしたいか希望を聞いてやりたいことがあればそれを優先して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に、利用者さんに洋服を選んでいただき着脱のお手伝いをさせてもらう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みのもや季節感を取り入れた食事をお出するよう心がけている。食材を切っていただいたり、食器の片づけ、拭くなど声掛けをしながら一緒にやっていたいしている。	刻みやとろみなど一人ひとりの状態に合わせ食べやすく調理されているため、利用者も食事が楽しみとなっている。誕生会には家族も招待され楽しい一時を過ごされている。利用者は配膳、下膳など力量に合わせ職員と行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分量もその都度チェックし1日を通して記録し、不足している部分は補うよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に必ず、口腔ケアを個々に合う仕方で行っている。また、市の訪問歯科を利用しアドバイスを受けている。曜日を決めて、義歯の洗浄剤で清潔に心がけている。		

グループホームあゆみ・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレへの促しをはかっている。	排泄チェックリストに記録されており、職員は一人ひとりのパターンを把握している。様子で察知しトイレ誘導するなどトイレでの排泄を大切にしている。また、夜間のみポータブルトイレを利用する方もおり、パットやリハビリパンツなど状態に合わせた介護用品を使い支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事提供と便秘になりやすいので意識的に繊維質を多く取り入れるよう心がけている。また、適度な運動も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴したいという気持ちを大切に、希望を聞き、その人のペースで入れるように支援している	入浴の回数は利用者の希望に応じている。介助する職員も利用者に聞き、同性あるいは異性の配慮も行っている。利用者の状態により2人で介助するなど安心して入浴できるよう支援している。周りには温泉施設もあり、外出や外食も兼ね出掛けることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望により、休息していただき、消灯時は決めずここに寝る時間が違うので眠くなった様子で休んでもらうよう促す		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日の午後に配薬を2人体制で行い、管理はしっかり行っている。薬が変わったときは情報としてあげ特に注意深く症状の観察を行っている。また、専属の薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に好みのものやそうでないものなどの把握につとめ、役割などもありそれが生活習慣になっている。外出支援なども取り入れ気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望が強い時などと外に出られるときはいっしょに外に出歩いて本人の気持ちに寄り添うようにしている。外食支援を行っている。四季を感じていただける様、ドライブなど外出を行っている。	天候と身体機能に配慮しながら、日々散歩を行っている。花見やいちご狩り、紅葉狩りなど年間計画を立て外出している。職員と一緒に精米所に行く人もいる。あまり外出できない方には気分転換も兼ね美容院にお連れすることもある。大型ショッピングモールでの買い物を利用者が楽しみにしている。	

グループホームあゆみ・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本もってきている人は少ないが、パンの販売車が来た時などお金を使い、パンの購入をしている。近くのコンビニに出かけ新聞などを買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は利用者さんのご希望があればご家族にかける支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは特に清潔を心がけている。リビングには季節にあった花や植木鉢を置く。外出時の写真を飾る。	各ユニットのリビングは広く、東ユニットは特にゆったりとできており、幼稚園児の来訪による歌と劇の披露、ユニット同士で紅白に分かれて行われる運動会も開かれている。南には建物がないため陽当たりも良く、北には浅間山が見え、利用者は馴染みの環境で居心地良く過ごしている。トイレや浴室も広い作りで利用しやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングなどで一人ひとりの座る場所がほぼ決まっており、その場所でお話をなしたりレクリエーションに参加したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの使用していたものを置いたり、ベッドの位置など使いやすい様に配慮して使っていただいている。	馴染みの物を持ち込まれている。物入れは持ち込んだものにより高さ調節ができる棚となっており、きれいに整理されている。家族の写真や昔の自分の思い出深い写真を飾り、個々に居心地よく過ごせるようにしている。	
55		建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じた介護をし、レクリエーションや一日の生活の中でできる事をしていただき過ごしていただいている。転倒に気をつけて見守りを行っている。		